

平成29年度 中学校社会科副読本 「石巻市の歴史」

指導事例 歴史的分野 『古代までの日本』 「日本列島の誕生と大陸との交流」

1 指導対象学年 1 学年

2 年間指導計画での位置付け

(1) 単元名 「古代までの日本」 (小単元「日本列島の誕生と大陸との交流」)

(2) 単元目標

- ・古代文明の発生、日本列島における人々の生活のあらましに対する関心を高め、意欲的に追求することができる。
- ・古代までの歴史地図や資料を適切に読み取り、小国のおこりから大和政権による統一までの過程を、文献資料を通して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現できる。
- ・東アジアと関わりながら国家が形成され、発展していった古代までの特色などを理解し、その知識を身に付けることができる。

3 指導にあたって

東アジアの文明の影響や関連を十分に図りながら、史料等の読解を通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整備されていったことを理解できるようにするとともに、当時の人々の生活や考え方等にも触れることができるようにしたい。

その際に、『石巻市の歴史』を活用し、身近な石巻地区の事例に触れることで、自分たちの住んでいる地域にも及んでいることに気付かせたい。

4 教科書 P 36～37

5 副読本 P 13～17

6 単元の学習・評価について (3時間扱い)

配時	学習内容	評価
1	「日本列島の誕生と縄文文化」 配当時間 1	【技】さまざまな資料から、日本列島で狩猟・採集の生活を行っていた人々の生活の特色について捉えることができたか。
2	「弥生文化と邪馬台国」 配当時間 1	【思】中国の文献などから、東アジアとの関わりを通して、国家が形成されていく過程について考察することができたか。
3 本時	「大王の時代」 配当時間 1	【技】大和政権の国内統一の過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して、捉えることができたか。 【知】遺物や遺跡などの具体的な資料を通して、古墳文化の特色を理解することができたか。

7 本時の学習

(1) 題材名 「大王の時代」

(2) 本時の目標

- ・大和政権の国内統一の過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して、捉えることができる。

【資料活用の技能】

- ・遺物や遺跡などの具体的な資料を通して、古墳文化の特色を理解することができる。

【知識・理解】

(3) 本時の指導にあたって

巨大古墳のほとんどが前方後円墳であり、巨大古墳が近畿地方に集中していること、たった1人が様々な副葬品と共に葬られているという3つの断片的な情報を組み合わせて、「近畿地方に大きな権力をもつ王を中心とする組織があった」という結論に到達させたい。

また、社会科副読本『石巻市の歴史』の活用方法として、当時、大和政権との関係性とその背景を考えることにより、より身近に感じることで関心をもつことができるようにしたい。

(4) 学習過程

段階	学習活動・予想される生徒の反応	形態	■指導上の留意点 ◎教師の働きかけ
導入 5分	1 古墳は誰が何のために作ったのか答える。 ・王様が自分の墓として造らせた 2 教科書の地図を見て、前方後円墳の分布が密集している地域を答える。 ・近畿 関東 九州北部など 3 本時の学習課題をつかむ。(ノートに記入) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">大和政権はどのように発展し、中国や朝鮮半島とどのような交流をしていたのか。</div>	一斉	◎教科書にある古墳の写真を見せ、古墳は誰が何のために造ったのか発問する。 ■日本各地に広がっていることを確認し、古墳が造られる範囲と大和政権の関係性を捉えさせる。
展開 40分	4 大和政権、大王、古墳から、古墳時代の特色をグループによる話し合いでまとめ発表する。 ①数や大きさの面から見た前方後円墳の特徴について ②発掘された副葬品から想像できる権力者像について ③巨大古墳の分布(近畿地方に集中)について 5 各グループの発表を受けて、キーワード参考に個人でノートに特色をまとめる。 6 『石巻の歴史』 p13~17を読み、石巻地方に古墳が少ない理由を考える。 7 教p36・37の資料から、中国の分裂状態と朝鮮半島3国の対立を捉え、渡来人がもたらした物を答える。 8 学習課題の検討(本時のまとめの記入) 教科書と板書事項を参考に、ノートにまとめる。 ※大和政権の支配者が大王であり、豪族がつかえた。朝鮮の文化が伝わり、鉄製の農具を使うようになった。 生産力が高まり、農耕が発達したことを理解する。	グループ     個人  一斉  一斉  個人  一斉	◎全員に発表させるよう班長に指示し、机間指導の中で他の生徒の意見を聞きながら思考を練り上げるよう助言する。 ■各グループの発表をもとに、キーワードを抽出し、黒板に板書する。 ◎型を示して、結論→理由(根拠)の順で書くように指導する。 ■県内の古墳分布図を確認させ、大和政権とのつながり等について考えさせる。 ■東アジア諸国と大和政権との交流について着目させ、中国の影響と渡来人の果たした役割の大きさを理解させる。 ◎机間指導で、板書事項のキーワードを示しながら考えるように助言を行う。 ■代表生徒に板書させ、自分の書いた内容と比させながら、理解を深めさせる。
終結 5分	9 7世紀になると前方後円墳の数が減ることを近畿地方を中心に着目し、なぜ、巨大な前方後円墳は造られなくなったのかを考える。 ※朝廷の命令で墓の作り方が決められたことを知る。	一斉	◎仏教の伝来によって寺院や仏像の建築に力が入れられ、権威を示す前方後円墳を造る必要がなくなった旨を補足する。

(5) 評価

- ・大和政権の国内統一の過程を、古墳の分布や鉄剣などの資料を通して、捉えることができたか。
- ・遺物や遺跡などの具体的な資料を通して、古墳文化の特色を理解することができたか。